



若山 加代子 議員

新ごみ処理施設建設 誠実で丁寧な対応を

建設予定地決定の経過

○新ごみ処理施設の建設についての説明会が開催され、地域住民から候補地の選定の方法について厳しい意見が出されている。いわゆる迷惑施設としてはごみ処理施設と同じ火葬場建設候補地選定方法と違うがなぜか。

○火葬場の候補地選定との相違点は、候補地を公募したかどうかという点。候補地の選定方法について、他市の事例を調査した。公募方式を採用された自治体において、住民の合意が得られないなどの事例が複数あり、市としては候補地を公募でなく市の中で検討する方針を進めた。

市民見学会、先進地視察を実施しなかったという点では、特に先進地視察の必要性がなかった。

○今回説明会が行われた地域では、ごみ処理施設が市民生活に必要な施設であるという点とは、十分に理解されていると感じている。過去に臭いや煙などで悩まされたという経験と、「なぜまたこんなのか」という思いも受け入れられない要因となっている。今後、そうした思いに誠実で丁寧な対応が必要だが。

○1回目の住民説明会で、出された質問や意見に対する説明を丁寧な対応で、今後も住民の不安を払しょくできるように努力する。また、建設地の決定後は市民、

地元代表、有識者などの意見を広く取り入れられるような、検討委員会を設置して施設の処理規模やごみの処理方式、配置計画、熱利用など施設整備をするうえで必要な事項について検討を行い、住民意見の反映をしたい。

国保財政の健全化

○国民健康保険料が平成26年度に引き上げられる予定で、加入者にとって大きな負担となるが、一般会計からの繰り入れを増やして、保険料負担を軽減することはできないか。

○平成26年度の保険料を15%程度引き上げても、県内21市中で半ばほど試算している。平成24年度の一人当たりの所得に対する保険料の負担割合は、県下で最も低い。これらの状況から、保険料の軽減に特定した繰り入れは考えていない。



山腰 恵一 議員

消防団支援で 地域防災力の 強化を！

消防団支援法の施行

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され消防団員の確保や処遇の改善・装備品の充実などが示された。

○消防団員の退職報償金や出勤手当等の処遇の改善については。

○地域の安全と安心を守る愛護精神を尊重しつつ、団員のモチベーションが低下しないよう様々な角度から処遇について検討していく。

○消防団員の減少は市の防災力の低下につながる。就業形態の多様化などにより、確保が困難となっている。具体的な取り組みは。

○団員1,884名の76%約1,400名がサラリーマンである。

災害発生時、団員は職場を離れることになるため、活動しやすい環境づくりが必要であり新年度から団員を雇用する事業所の表彰制度や、協力事業所表示制度といった職場環境の充実など団員確保につながる制度を実施する。

ふるさと納税「飛驒高山ふるさと寄附金」

○ふるさとを応援していただく為にも積極的なPRをしては。

○東京や名古屋など地域出身者の総会などで積極的にPRしている。

○お礼の品は、地域の特産品等の魅力を全国に発信するためにもホームページ上で選択できるような特産品等の充実を図っては。

○10種類程度から選択

いただいております。大にも繋がっている。

公共データの活用「オープンデータ」推進について

○自治体などが保有している情報のうち「防災・減災情報、経済情報、統計情報」など公共データを民間事業者が利用しやすい形で公開する「オープンデータ」推進の考えは。

○人口、世帯数などを公開しているが、今後の取り組みとして市民や事業者が二次的に加工できるデータについてオープン化していく。



新春恒例の消防出初式（高山支団）